

## きゅうりん館<sup>かん</sup>ができたおかげで



しゅうかくのじきは、朝と夕方の2回、きゅうりをもぎとります。しゅうかくしたきゅうりを家に持ち帰り<sup>かえ</sup>、しゅるいごとに分ける<sup>さぎょう</sup>作業やはこにつめる<sup>さぎょう</sup>作業をしなければしゅっかすることができません。朝早くから、夜おそくまで休むことなくはたらきます。

またこの時期<sup>じき</sup>は、病<sup>びょう</sup>気<sup>き</sup>や虫<sup>むし</sup>のひ害<sup>がい</sup>に合わないようにしようどくなどの作業<sup>さぎょう</sup>もあり、いそがしい時期<sup>じき</sup>が長く続<sup>つづ</sup>きます。

しかし、きゅうりのしゅるい分けやはこづめを機<sup>き</sup>械<sup>かい</sup>でやってくれる「きゅうりん館<sup>かん</sup>」ができたおかげで、しゅうかくしたきゅうりをそのまましゅっかできるようになり、仕事<sup>しごと</sup>がたいへんらくになってきました。

「きゅうりん館<sup>かん</sup>」は、きゅうりのしゅるい分けやはこづめのほか、岩瀬<sup>いわせ</sup>地方<sup>ちほう</sup>でつくられたやさいを東京<sup>とうきょう</sup>などの大きな都会<sup>とかい</sup>にトラックで運<sup>はこ</sup>ぶちゅうけいじよになっています。



きゅうりん館



はこづめのようす